

奈良県の地場産品

画像	説明文	画像	説明文
	<p>靴下 (大和高田市、広陵町、香芝市) <small>くつした やまとたかだし こうりょうちょう かしばし</small> 明治40年代に現在の広陵町で靴下の生産が始まり、今では奈良県は靴下 (ソックス、タイツなど) の一大産地として認められています。</p>		<p>スキー靴 (天理市、川西町) <small>ぐつ てんりし かわにしちょう</small> スポーツシューズとともに、スキー靴の生産も奈良県では盛んです。</p>
	<p>紳士靴 (大和郡山市) <small>しんしぐつ やまとこおりやまし</small> 明治29年から奈良県で靴造りが始まり、大正から昭和にかけてビジネスシューズの需要増大とともに、奈良県の産業として成長しました。</p>		<p>スポーツシューズ (三宅町) <small>くつづく みやけちょう</small> 靴造りの伝統技術を応用し、野球用スパイクシューズやゴルフ用シューズなどスポーツシューズの生産も奈良県では盛んです。</p>
	<p>織物 (大和郡山市、橿原市、広陵町) <small>おりもの やまとこおりやまし かしはらし こうりょうちょう</small> かつて奈良県は蚊帳 (かや) の産地でしたが、その製造技術をいかし、現在では住宅用・産業用の織物産地となっています。</p>		<p>グローブ、ミット (三宅町、桜井市、河合町) <small>たいしょうじだい みやけちょう さくらいし かわい ちょう</small> 大正時代に現在の三宅町でグローブの生産が始まりました。長年の実績から、奈良県産のグローブ・ミットは高品質を誇っています。</p>
	<p>葛繊維製品 (奈良市、大和高田市) <small>くず せんい せいひん ならし やまとたかだし</small> 葛の繊維質と綿・絹の繊維をブレンドした混紡糸を使用し、草木染めなどの自然の染色を取り入れた、環境に優しい繊維製品です。</p>		<p>軽装履 (三郷町、上牧町) <small>けいそう ばき さんごうちょう かんまきちょう</small> 昭和30年頃から下駄の販売が落ち込み、軽装履が生産されるようになり、現在では奈良県産が国内で高い割合を占めています。</p>



ニット (大和高田市、橿原市、葛城市)
江戸時代の手織り機による大和木綿の生産から、明治以降は機械化による肌着づくりが始まり、現在ではセーターなどが作られています。



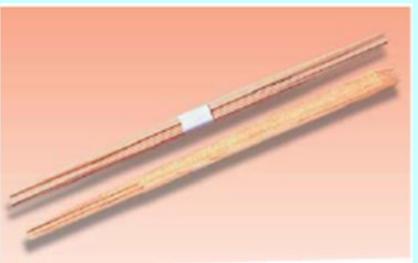
衣料縫製品業 (橿原市、広陵町、大和高田市)
大正時代に奈良県でエプロン、割烹着の縫製作業が始まり、動力ミシンの導入とともに昭和30年代には米国への輸出が行われるほど発展しました。



工業用手袋・安全保護具 (大和高田市)
昭和10年頃から造船所、製鋼所などからの発注で本革製手袋の生産が始まり、その後工業での作業に適したさまざまな保護具が作られています。



染色 (橿原市、御所市、広陵町)
明治初期に奈良県で大和緋の生産を始めた頃、藍染めを専門に行う「紺屋」が誕生し、その後繊維産業が盛んになるにつれ、染色業が発展しました。



箸 (大淀町、上北山村)
江戸時代中期から明治時代に、奈良県で箸づくりが産業となりました。吉野杉を用いた最高級の杉箸は高い評価を得ています。



貝ボタン・革ボタン (川西町、橿原市)
奈良県では、明治時代に貝ボタンの生産が始まり、昭和20年代より革ボタンの生産が始まりました。貝ボタン、革ボタンは高級衣料用として発展を遂げ、奈良県は全国でも数少ない生産地となっています。



サンダル (御所市、葛城市、上牧町)
明治20年頃から草履の製造が始まり、昭和25年にはスポンジ草履の製造が加わり、現在のプラスチックサンダルに至っています。



桐材加工 (御所市)
軽くて丈夫な桐材の特長をいかし、桐たんすや桐箱等に加工し、それぞれ商品化されています。



毛皮 (宇陀市)
昭和20年代に現在の宇陀市で、兎の皮を中心に毛皮生産が始まり、今ではミンク、キツネなどの毛皮を用いた様々な商品が作られています。



鹿革 (宇陀市)
宇陀市は、剣道の防具やメガネふきなどに使用される鹿革の生産地としても全国で有名です。

奈良県の伝統工芸品

<small>がぞう</small> 画像	<small>せつめいぶん</small> 説明文	<small>がぞう</small> 画像	<small>せつめいぶん</small> 説明文
	<p>高山茶筌 (生駒市) <small>たかやまちゃせん いこまし</small> <small>むろまち じだい げんざい かたち はじ つく</small> 室町時代、現在の形を初めて作ったといわれ、 <small>さどう りゅうせい ちゃせん づく さか</small> 茶道の隆盛とともに茶筌作りが盛んとなり、その <small>ぎじゅつ だいだい でんしょう</small> 技術が代々伝承されてきました。</p>		<p>大和出雲人形 (桜井市) <small>やまと いずも にんぎょう さくらいし</small> <small>むかし しの そぼく けいたい しきさい つち にんぎょう なら</small> 昔を偲ばせる素朴な形態と色彩の土人形は奈良 <small>かずすく きょうど がんぐ あいこうしゃ ふ</small> の数少ない郷土玩具として愛好者も増えています。</p>
	<p>奈良筆 (奈良市) <small>なら ふで ならし</small> <small>そう くのうかい ちゅうごく ふで せいほう も かえ なら</small> 僧空海が中国から筆の製法を持ち帰り、奈良で <small>せいぞう</small> 製造されるようになったのが始まりといわれて います。</p>		<p>奈良漆器 (奈良市) <small>なら しっき ならし</small> <small>なら しっき とくちょう らでん ぎほう しゅ</small> 奈良漆器の特徴である螺鈿技法を主として、硯 <small>りばこ ほうせきばこ ふみばこ つく</small> 箱、宝石箱、文箱などが作られています。</p>
	<p>奈良墨 (奈良市) <small>なら すみ ならし</small> <small>こうふくじにたいぼう じぶつどう とうみょう すず あつ</small> 興福寺二諦坊で持仏堂の灯明の煤を集め、これ <small>にかわ ま はじ</small> に膠を混ぜてつくったのが始まりといわれてい ます。</p>		<p>面 (奈良市) <small>めん ならし</small> <small>むろまちじだい かんせい のう きょうげんめん かんしょうよう つく</small> 室町時代に完成された能、狂言面が鑑賞用に作 られたものです。</p>
	<p>赤膚焼 (奈良市、大和郡山市) <small>あかはだ やき ならし やまとこおりやまし</small> <small>にゅうはくしよく やわ ふうあ ならえ もんよう とくちよう</small> 乳白色の柔らかい風合いと奈良絵文様が特徴 <small>ゆの とう たよう さくひん つく</small> で、湯呑み等多様な作品が作られています。</p>		<p>鹿角細工 (奈良市、田原本町) <small>しか つの ざいく ならし たわらもとちよう</small> <small>しか つの かこう みが しあ</small> 鹿の角をノコとヤスリで加工し、磨いて仕上げ たものです。</p>
	<p>奈良団扇 (奈良市) <small>なら うちわ ならし</small> <small>なら じだい つく はじ めいじ はじ</small> 奈良時代作ったのが始まりといわれ、明治の初 <small>す ぼ うちわ ふっこう</small> めには透かし彫り団扇も復興されました。</p>		<p>奈良晒 (奈良市) <small>なら さらし ならし</small> <small>あおそ とう つむ いと てお あきぬの まっしろ</small> 青苧等を紡いで糸にし、手織りした麻布を真白 <small>さら</small> く晒したものです。</p>



木製灯籠 (奈良市)
江戸時代寺社の調度品などを作る諸職が栄え、杉や桧などを用いた灯籠が今日まで伝承されています。



吉野手漉き和紙 (吉野町)
宇陀紙、美栖紙、国栖紙とも呼ばれ、優れた風合いとねばりの強さが特徴です。



吉野杉桶・樽 (下市町)
吉野地方では古くから生活用具の材料として利用されており、近年では、桶、樽などが主に製造されています。



大和指物 (大和郡山市)
江戸時代より吉野杉等を使い、伝統的な社寺建築の調度品、工芸品がつくられています。



神酒口 (下市町、大淀町)
御神酒徳利に挿し、神棚に置かれていますが、結婚式、上棟式などの縁起物としても飾られています。



大塔坪杓子 (五條市)
江戸時代、近江小椋郷より木地師、杓子師が往来したのが始まりといわれ、生活必需品として使われていました。



三方 (三宝) (下市町)
南北朝時代、天皇への献上物をのせる器として用いられたのが始まりといわれています。



くろたき水組木工品 (黒滝村)
江戸時代から大峰山賽銭箱として製作されました。



笠間藍染 (宇陀市)
全国的に数少ない天然藍建による糸染め、布染めが笠間で継承されています。



奈良一刀彫 (奈良市)
奈良人形ともいわれ、桧、桂、楠等を素材として、ノミで豪快に彫り上げた上に、金箔や岩絵具等で極彩色を施しているのが特徴です。



高山茶道具 (生駒市)

生駒市高山町で茶釜と同じく茶道具が生産されています。竹の優美さと弾力性を素材に活かした茶道具類が伝統技術により仕上げられています。



神具・神棚 (下市町)

この地方で製造される神棚は上質の桧材を丹念に組み上げ、桧の気品ある香りと相まって独特な厳肅さがあふれています。



奈良表具 (奈良市、桜井市、大和高田市)

奈良時代に始まった表装技術を受け継ぎ発展させ、継承してきており、現代では歴史的価値のある書や古文書の修復などに用いられています。